

第3回 大井川大規模氾濫に関する減災対策協議会 議事要旨

1. 日時：平成29年5月30日（木） 10:00～11:00
2. 会場：島田市 プラザおおるり 大会議室
3. 出席者：委員 島田市市長・焼津市長・藤枝副市長・牧之原市長・吉田町長・川根本町長・静岡県 島田土木事務所長・静岡県 中部危機管理局長
静岡県 静岡地方気象台長・静岡県 静岡河川事務所長・長島ダム管理所長
事務局 静岡河川事務所
4. 議事
 - (1) これまでの経緯の確認について
 - (2) 大井川の取組状況について
 - (3) 分会の取組について
 - (4) 各機関の取組について
5. 議事概要
 - (1) これまでの経緯の確認について
第1回協議会、第2回協議会、これまで計5回の幹事会の確認、水防法改正
 - (2) 大井川の取組状況について
 - (3) 分会の取組について
 - (4) 各機関の取組について
平成28年6月に作成した取組方針の進捗状況について確認した。
3本柱の取組「住民の防災意識の向上」「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」
に対して、分会、各機関それぞれの取組を、分会は事務局から、各機関は委員から報告した。

【出席者の主な発言内容】

- ・住民の防災意識向上のため取組として、防災学習室をリニューアルした。風水害体験コーナー等子供達を中心に利用されている。逃げ遅れゼロの取組として、災害対策本部の機能を強化し、静岡河川事務所と映像の共有が可能となった。社会経済被害最小化の取組として、排水ポンプ車の操作や航空自衛隊を交えた水防演習を実施している。本協議会の取組みについてであるが、住民の不安を煽らないために、堤防の整備などハード対策による減災効果の周知・情報発信をお願いしたい。また、過去に避難勧告等の発令時期に市町間で違いが見られた。避難判断の違いにより市民が混乱しない体制が必要である。作業分会でも検討していると思うが、各市町の避難対応がバラバラとならないような適切な避難判断の仕組みづくりをお願いしたい。【焼津市長】

- ・住民の防災意識向上のための取組として、風水害の防災出前講座を開催した。今年度も引き続き実施し、防災意識の向上を図る。逃げ遅れゼロの取組として、手作りハザードマップを参考に、避難経路や避難行動を確認した。
また、大井川の洪水に対するタイムラインを作成した。引き続き、県等の中小河川でのタイムラインを検討していきたい。社会経済被害最小化の取組として、水防訓練を実施しており、小学生の参加の取組を始めた。水防訓練を知らない小学生もおり、水防訓練に参加したことは大変良かった。【藤枝副市長】
- ・住民の防災意識向上のための取組として、防災チャレンジ運動会を開催。土のう積み競争等を通して、住民の皆さんの防災に対する意識の向上が目的。逃げ遅れゼロの取組として、要配慮者利用施設の避難確保計画作成に向けた説明会を実施した。社会経済被害最小化の取組として、各種水防工法の実践訓練として水防訓練を実施している。
今年度は、小学校の防災教育試行授業、防災チャレンジ運動会の継続開催、ヤフーの防災速報メールの運用を進めていく。【島田市長】
- ・川根本町では、長島ダムと月1回の情報交換を実施している。年に1、2回イベント等を開催し、長島ダムの役割などを案内している。大井川上流は堆砂が多い事から土砂を取っていかないと水害は無くならないと思っている。本協議会においても上流の堆砂状況をどうするかについても検討することが重要である。【川根本町】
- ・住民の防災意識向上のための取組として、3つの中学校で防災体験学習や各自主防災組織などへの防災出前講座を実施した。地震津波に対するものが多い中、風水害についても実施し、防災意識の向上に努めていく。
社会経済被害最小化の取組として水防訓練を実施。消防団により、土のうの作成や水防技術研修を行う。
市整備の排水ポンプ車の設置訓練を行うとともに、浸水常襲地区においてポンプ車の配置位置や運搬経路をとりまとめた排水計画（案）を作成した。また、大井川の洪水情報に関する緊急速報メールの開始を広報紙に掲載した。避難勧告は、空振りも許されるが、見逃しは許されないことを念頭に置いて訓練や本部の充実を図っていく。【牧之原市長】
- ・社会経済被害最小化の取組として、坂口谷川の支川における排水計画（案）を作成した。
また、住民に水害リスクを知ってもらうため、住民と合同での点検を実施した。住民の防災意識向上のための取組として大井川の洪水情報に関する緊急速報メールの開始を広報紙に掲載した。【吉田町】
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成を促進するため、施設管理者等を対象と

した説明会を開催するとともに、県管理河川においても減災に向けた取組を進めるため、島田土木事務所管内においても減災協議会を設立した。

また、県管理の洪水予報河川及び水位周知河川についても、想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図の作成を進めていく。【島田土木事務所長】

- ・風水害版図上訓練として市町の防災担当職員を集めて、防災情報の処理や活用・避難情報の発令判断基準の確認などロールプレイング形式による訓練を実施しました。また、市町が避難情報を発令するなかで、空振りや発令の遅れなどの問題について意見交換会を行い、課題を共有し、改善に向けて取り組んでいます。平成29年度は、より効果的な形で実施していきます。企業向けメールマガジンに、今年度も引き続き、風水害、水難事故等の防災情報を掲載します。学校防災教育の出前講座において、風水害についても、しっかり時間を割いて実施していきます。【中部危機管理局】
- ・新たなステージに対応した気象情報を提供を進めています。「危険度を色分けした時系列」「警報級の可能性」について平成28年度は防災関係者のみの試行的提供でしたが、平成29年度は5月17日から一般の気象庁HPで提供が始まりました。また、平成29年度は、「大雨警報の危険度分布」「洪水警報の危険度分布」を7月から提供を開始する予定です。【静岡气象台長】
- ・ダム下流域の川根本町や島田市の定期的な情報共有を図っており、今年度も継続していく。ダムの機能を最大限活用する運用方法の取組として、これまでサーチャージ水位よりも水位を上げないこととしていたが、いざという時には、サーチャージ水位よりも水位を上げられるよう操作規則を変更した。今年度は、川根本町と協力してダムのタイムラインの検討を進めていく。【長島ダム管理所長】
- ・大井川では、牛尾地区の開削が概ね終わりますので、神座地区の低水護岸整備と着実に進めて行く。昨年度は、大井川の想定最大規模降雨を対象とした洪水浸水想定区域図を公表しました。また、台風来襲時を想定したタイムラインの見直しを行いました。平成29年度は、避難までの時間を少しでも確保するために堤防天端の舗装を実施します。また、洪水浸水想定区域図を時系列に分かり易くした氾濫シミュレーションを公表する予定です。【静岡河川事務所長】

以上